

## 平成 17 年度 第 1 回評議員会議事録

期 日 平成 17 年 4 月 24 日 ( 日 ) 13:00 ~ 15:00  
場 所 KKR 札幌  
出席数 評議員 44 名の内、出席 29 名、欠席 15 名 ( 委任状 14 名提出 )  
議 事

### 1 . 平成 16 年度事業報告について

( 各委員会の委員長から活動報告があった )

#### 1.1 強化委員会

( 成年北海道代表 )

- ・ 第 41 回東日本都道府県大会について、予選会は平成 16 年 4 月 10・11 日に宮城県名取市で行われ岩手県代表と対戦し 46 - 31 で勝利を収め決定戦進出。代表決定戦は 4 月 19・20 日に宮城県石巻市で行われ秋田県代表と対戦し 15 - 28 で敗れ第 1 代表になれず第 2 代表決定戦へ。第 2 代表戦は岩手県を 44 - 12 で破り本大会に駒を進める。本大会は 5 月 1 ~ 4 日に新潟県新潟市で行われ、神奈川県代表と対戦し 15 - 56 で敗れる。敗者戦では秋田県代表と対戦し 5 - 53 で敗れる。成果としては、本大会に出場できたこと、関東のチームと試合が出来たことが挙げられる。
- ・ 国体は、10 月 22 ~ 27 日に埼玉県熊谷市で行われ、1 回戦がシードで、2 回戦福岡県代表と対戦し 0 - 41 で敗れる。順位戦は宮城県代表と戦い 15 - 55 で敗れ 7 位となる。

#### 1.2 レフリーソサエティ

- ・ B 級公認レフリー認定講習会への参加者は多くなってきているが、まだまだ多くしたい。各支部には B 級候補者推薦など積極的な取り組みをお願いしたい。
- ・ 北海道選手権大会のグラウンドをブロックで割り振りすることは、レフリーの割付が困難になっている。
- ・ ゲームの少ない地区が多く、他地区とのレフリング交流を積極的に行う必要がある。
- ・ C 級公認レフリー認定講習会の受講者が少ないことから積極的な参加を促す。

#### 1.3 コーチソサエティ

- ・ A 級中央トップコーチ招聘研修会は、日本協会から 2 名の講師を招聘し 5 月 29・30 日に月寒ラグビー場で 38 名の参加により実施した。
- ・ スタートコーチ養成講習会は、北海道協会から日本協会公認講師 2 名によって帯広で 47 名の参加者により実施した。
- ・ セブンスラグビー指導者講習会は、日本協会から 1 名の講師を招聘し北見で 28 名の参加者により実施した。セブンスに脚光があたってきた。
- ・ 課題としては、普及育成委員会、強化委員会との連携した各種事業を起こす必要がある。また、コーチ研鑽も含めたコーチ派遣体制の確立を図って行きたい。
- ・ 2005 年からの JRFU コーチ資格の新設・更新により取得内容・講習時間が増した。また、日本協会では都道府県代表チーム監督・コーチの有資格者の義務付けをこの数年で行っていく予定である。道協会でも、その基礎コーチとなるスタートコーチ

養成事業を積極的に開催していきたい。

#### 1.4 競技委員会

(北海道選手権大会)

- ・ 今年、夕張グラウンドが3面しか使えなかったが、野幌グラウンドが2面使用可能となったこと、苫小牧支部の協力を得て出光興産グラウンドが確保でき昨年度並みに全試合芝生のグラウンドで競技ができた。グラウンドが1,2回戦同じグラウンドとなり対戦相手の試合が見られることや移動がなく良かった。
- ・ 大学委員会から7月第1週は教員採用試験の都合上、第2週開催の要望があり、今年度は第2週に実施したが、チーム・選手のコンディション管理上、土・日・日の2週間実施の要望が出された。
- ・ 上位ブロックチームから競技時間正規化の要望があることから、上位ブロックから40分、35分、30分ハーフ等とすることの検討をして行きたい。
- ・ チーム数の減少対策というだけでなく、普及という側面からもオーバー35のブロックを検討したい。
- ・ タッチジャッジを資格者(C級レフリー)でやってほしいとの要望がある。

#### 1.5 普及育成委員会

- ・ ミニ・Jr指導者講習会を6月14・15日にNTTセミナーセンターと尚志学園グラウンドで各地区スクール代表・中学校代表22名の参加者により実施した。各地区の活動内容が把握できた。
- ・ 北海道中学生強化合宿を6月26・27日に月寒ラグビー場で中学2、3年生を対象として実施した。
- ・ 第3回北海道ミニ・Jr指導者研修会を10月2・3日に函館根崎ラグビー場で40名の参加者で実施した。3回目の開催ということで指導員の意識が高まっている。
- ・ 第24回東日本ラグビースクール中学生大会は、平成17年1月4~6日に東京アミノバイタル球技場で行われ、北海道スクール選抜は新潟スクール選抜に10-51、長野スクール選抜に5-53で敗れた。全国との差は縮まってきているが、一方で参加者負担軽減、選抜方法の検討が必要である。

#### 1.6 高校委員会

- ・ 第4回北海道高等学校強化講習会は普及指導講習会と合わせて、3名の指導者を招聘し5月1~3日に津別町で15校139名の参加者により実施した。
- ・ 第59回国民体育大会北海道予戦会(少年の部)ラグビーフットボール競技を、6月12~15日に帯広の森ラグビー場で39校編成チームにより実施した。同時に、日本協会ユースチーフコーチを招聘して指導者の実技講習・研修会を実施した。
- ・ 第14回北海道高等学校1年生U16ラグビーフットボール大会を、8月11~13日に北見市若松河川敷ラグビー場で45校77名の参加者により実施した。
- ・ 第57回北海道ラグビーフットボール南北選手権大会兼第84回全国高等学校ラグビーフットボール大会北海道予戦会を9月28~10月2日に美幌町柏ヶ丘公園陸上競技場と旭公園ラグビー場で行った。

- ・ 第7回セブンスラグビーフットボール選手権大会を10月15～17日に札幌月寒ラグビー場で16校105名の参加者により実施した。全国大会につながっており励みになっているので続けたい。

#### 1.7 高専委員会

- ・ 第35回全国高等専門学校ラグビーフットボール大会北海道予選会兼第40回北海道地区国立工業高等専門学校体育大会ラグビーフットボール競技会全国大会を10月9日に旭川市で行い、函館高専と旭川高専が出場権をかけて戦い88-7で函館高専が勝利した。
- ・ 第35回全国高等専門学校ラグビーフットボール大会は、平成17年1月4～9日神戸市で行われ、函館高専は決勝戦まで駒を進め神戸高専に15-53で惜しくも敗れた。

#### 1.8 大学委員会

- ・ 北海道地区ラグビーフットボール学生連盟強化講習会を5月14・15日に夕張市で各分野の講師を招いて11チーム49名の参加者により実施した。講習会は、レベルアップとレフリー養成を目的とし、練習方法の理解、メディカル、テーピング、ラックプレーとレフリーの実技などを行った。
- ・ 第6回北海道地区セブンスラグビーフットボール大会を7月24日に夕張市平和運動公園ラグビー場で14チーム140名に参加者により実施した。メンバー不足で休部しているチームの出場の機会となり、全国大会につながるためモチベーションが高まった。
- ・ 第34回北海道地区ラグビーフットボール選手権大会兼第12回全国大学選手権大会予選兼第55回全国地区対抗大学大会北海道予選会を9月19日～10月31日に野幌運動公園ラグビー場を始め各地区会場で25チームの参加により実施した。

#### 1.9 社会人・クラブ委員会

- ・ 第2回トップリーグチャレンジプレーオフ出場決定戦北海道予選会は、参加チームがなく実施しなかった。昨年は、予選会は行わずに東千歳自衛隊がプレーオフに出場しトップノース1位のNTT東北と戦い敗れた。
- ・ 来年度の厳しい状況になると考えられるが、社会人とクラブの枠組みの問題解決などにより打開したい。
- ・ 第1回東日本クラブリーグの2試合を9月26日と10月3日に月寒ラグビー場で行った。初めての開催であり運営上の問題が指摘された。

#### 1.10 メディカルコミッティ

- ・ 大学学生連盟講習会が5月15日夕張市で開催され、体力増強、ドーピング検査などについて講演した。
- ・ 有料試合(6/20 明治大学対関東学院戦、9/20 トップリーグ)のグラウンドクター。

#### 1.11 安全対策委員会

- ・ 有料試合を始め各種大会6大会に延べ21名のグラウンドクターを派遣した。
- ・ メディカルサポーター要請講習会を3地域で述べ142名の参加により実施した。

- ・ レフリーソサエティ、強化委員会などと連携を深め組織全体で安全対策の充実を目指す。

#### 1.12 ゴールデンオールディーズ委員会

- ・ 2 試合の有料試合の運営参加を行った。参加した委員に会員証を発行した。
- ・ 大会運営の参加者が少ない状況にあることから、会議による意見交換、活動のアピールなどを行う必要がある。

#### 1.13 広報委員会

- ・ 協会情報の一般社会及び加盟チームへの情報発信。ホームページによる有料試合、大会に係る情報発信。ポスター、プログラム作成による広報活動などを行った。
- ・ 課題としては、ホームページ以外でもイベント情報を発信する手段の検討を行う必要がある。

(試合並びに大会経過)

- ・ 庶務担当理事から「平成 16 年度 事業報告並びに決算報告」資料に基づき、第 59 回国体北海道選手団、平成 16 年度優秀選手、試合並びに大会経過について説明があった。

### 2 . 平成 16 年度決算報告について

- ・ 会計担当者理事から、収支報告書、経費内訳、有料試合の収支決算について説明あり。
- ・ 平成 16 年度のチーム登録数は、175 チーム 4,942 名 (登録料対象は 161 チーム) で前年度に比べチーム数 1・人数 111 名減少している。
- ・ 傷害見舞金の請求手続きにおいて、傷害報告書 (見舞金請求書) 及び傷害診断書の提出期限切れが発生している。各支部を通じて各チームへ指導を行う。

### 3 . 役員改選について

(理事長指名理事の改選)

- ・ 杉目会長、藤江副会長、蓑口副会長が再選された。
- ・ 佐藤 (司) 普及育成委員長は解任、山内会計担当理事は退任となった。
- ・ 庶務担当に佐藤 (幹) 理事、会計担当に原田理事が新たに就任することとなった。
- ・ 普及育成委員長は門脇理事が就任した。
- ・ コーチソサエティ委員長は増谷理事 (支部選出理事) が就任した。
- ・ 高校委員長は田中理事 (支部選出理事) が就任した。
- ・ 会計監事として長谷部氏が新任となった。

### 4 . 平成 17 年度事業計画について

- ・ 庶務担当理事から、事業計画について説明があった。

### 5 . 平成 17 年度事業予算について

- ・ 会計担当理事から、平成 17 年度収支予算書について説明があった。
- ・ 平成 17 年度事業計画に基づき予算を策定しているが、財政状況についてはまだ余裕があるという段階までには至っていない。ラグビースクールへの援助等、考えていかなければならない案件はいくつもあるが、引き続き緊縮予算とならざるを得ない。各支部、各チームの協力をお願いしたい、と理事長からの話があった。

## 6. 説明事項に対する質問・意見等について

- 旭川支部 鈴木評議員

会計担当理事の任期が1年となっているが、他の理事同様2年とするべきでは

- 地方協会の規約については、関東協会からその準則的な規約が示されており、それに準じている

- 旭川支部 鈴木評議員

スクールの指導員はボランティアでラグビーの普及発展に尽力している事に鑑み、協会として、なにがしかのサポートをすべきと考えるが

- 平成16年度の決算の繰越額等からそのように考えるのかと思うが、本道チームが年度当初大会に出場する場合などを考慮すると、そこまでの資金を運用する状況にはない。協会としては、とりあえず負債を清算し、財政を安定させることが肝要と考えているので、当協会が財政的に安定するまで猶予をいただきたい。

なお、財政安定の折りには、当然、普及や強化並びに支部補助等に資金を充当するつもりでいる。